

科目ナンバリング		G-LAS00 80008 LJ44							
授業科目名 <英訳>	ベンチャーファイナンス入門 Introduction to Venture Financing			担当者所属 職名・氏名	成長戦略本部 特定教授 木谷 哲夫 非常勤講師 水永 政志				
群	大学院共通科目群		分野(分類)	社会適合			使用言語	日本語	
旧群		単位数	0.5単位	時間数	7.5時間	授業形態	講義(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2025・ 後期集中		曜時限	集中 未定		配当学年	大学院生	対象学生	全学向
【授業の概要・目的】									
イノベーションは、多くの場合、新たな市場の創出を目指す。しかし、既存の市場が存在しないため、その実現を担うスタートアップ企業には、高い不確実性が伴う。									
このような不確実性の高いスタートアップに対して、資金を供給する仕組みの一つが、**ベンチャーキャピタル(VC)を中心とした集団投資スキーム(ファンド)**である。ベンチャーキャピタルは、機関投資家などから資金を募り、それをスタートアップ企業に対して資本性資金として投資することで、イノベーションの実現に必要なリソースを提供する役割を果たしている。この仕組みは、リスクを分散しながら成長を促進するダイナミックな投資手法であり、日本においても、その重要性は年々高まっている。									
本授業では、ベンチャーファイナンスの基本的な考え方や仕組みを学び、スタートアップにおける資金調達の全体像を理解することを目的とする。具体的には、起業の初期段階における資金調達から、成長過程における投資戦略、さらには株式上場(IPO)やM&A(企業買収・売却)に至るまでの流れを解説する。授業では、講義に加え、実際の企業事例をもとにしたケース分析を行い、スタートアップが直面するファイナンス上の課題とその解決策について、実践的な理解を深める。									
【到達目標】									
資金調達に際して必要となるベンチャーファイナンスの考え方や仕組み、企業価値、コーポレートガバナンス、株式上場やM&Aによる出口戦略まで、基礎的な概念に対する理解を網羅的に習得する。									
【授業計画と内容】									
2月25日(水)									
3限 1. ベンチャーファイナンスとは									
・ debtとequity									
・ エンジェル投資家、インキュベーター等の役割									
・ ベンチャーキャピタルの仕組み、機関投資家のポートフォリオマネジメント									
4限 2. 資本政策と企業価値評価									
・ 資本政策の考え方									
・ 企業価値評価の方法									
・ シード、アーリー、グロースのステージ別の重点事項									
・ ケース分析									
3月4日(水)									
3限 3. コーポレートガバナンス									
・ 企業統治の考え方									
・ 株主とステークホルダー									
・ 取締役会の役割									
ベンチャーファイナンス入門(2)へ続く									

ベンチャーファイナンス入門(2)

4限 4 . 上場、M & A、出口戦略

- ・ 株式市場と株式上場の意義
- ・ M & Aによる会社売却
- ・ 創業経営者個人の出口戦略
- ・ ケース分析

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポート提出

授業参加・貢献（出席および授業中のミニクイズ、質問・発言等）

【教科書】

水永政志 『ベンチャーファイナンス実践講義』（ダイヤモンド社,2013）ISBN:978-4478021330

【参考書等】

（参考書）

磯崎哲也 『増補改訂版 起業のエクイティ・ファイナンス』（ダイヤモンド社,2022）ISBN:978-4478116203

（関連URL）

<https://www.saci.kyoto-u.ac.jp/venture/ims/>(産官学連携本部のアントレプレナーシップ人材育成プログラム、セミナー等の情報、起業相談等についてはURL参照)

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中の双方向の討議のために事前アンケートに回答すること（履修登録者にGoogle FormへのリンクをKULASISから送付する）。

PandA上に掲載する予習用の教材およびケース分析資料を事前に読了すること（授業開始の2週間前に掲載。掲載時はKULASISにて通知する）

【その他（オフィスアワー等）】

別途指定する

本科目は大学院教育支援機構が提供する「産学協同教育コース」を構成する科目であるが、コース履修に関わらず本科目のみ受講することも可能です。